

米国金融政策（2025年6月FOMC）

4会合連続で政策金利の据え置きを決定

2025年6月19日

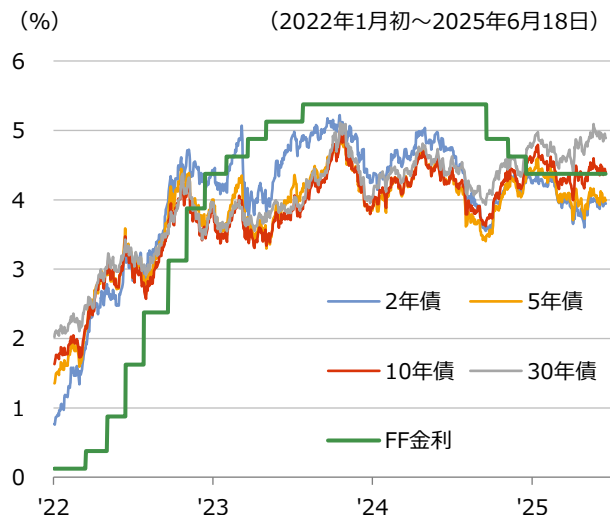
不透明感が強い状況で追加利下げを急がない姿勢を継続

FRB（米国連邦準備制度理事会）は6月17日～18日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%で据え置くことを決定しました。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額50億米ドル、住宅ローン担保证券で月額350億米ドルを維持しました。

声明文は「経済見通しを巡る不透明感は和らいだものの依然高い」とした上で、「2つの使命（物価安定と雇用最大化）に対する両側のリスクに注意を払っている」と指摘しました。実際、景気見通しは下方修正された一方で、インフレ見通しは上方修正されました。注目されたFOMC参加者の2025年末FF金利見通しは中央値で3.875%と、前回3月から変化はありませんでした。パウエルFRB議長は「政策スタンスを調整する前により多くの情報を待つことができる状況にある」と述べ、様子見姿勢を維持しました。もっとも、年内利下げ見送りを想定する参加者は7人と前回の4人から増加しており、意見に相違も見られます。

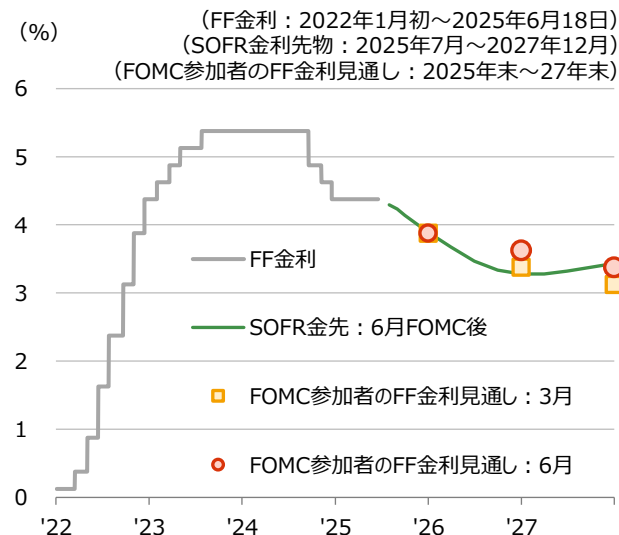
今回のFOMCでは政策スタンスに大きな変化はなく、金融市場の反応は総じて限定的でした。FF金利先物によれば、次回の利下げは9月の可能性が高く、年内2回弱の利下げが引き続き織り込まれています。目先はトランプ政権と各国の通商交渉の行方ならびに経済動向に注目が集まります。議長は「金利見通しに強い確信を持っている人はいない」と発言しており、政策調整時期を柔軟に探る段階にあるとも言えます。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーク

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management